

表現運動の指導と課題

——幼児体育の授業を通して——

宮 下 恭 子

Ⅰ. 研究目的

幼児体育の基礎Ⅰ及びⅡの授業では、保育者に必要な幼児の運動あそびと表現運動の指導法と内容についての学習を行っている。幼児の心身の発達に即した運動や遊びの中でも、表現あそびは子どもたちの想像性豊かにし、創造力を養う遊びである。室内遊びでは「お店屋さんごっこ」や「おうちごっこ」などの「ごっこあそび」がその典型であるが、活動的な表現遊びでは、「ヒーローごっこ」の変身あそびや「プロレスごっこ」の戦い遊びなど、子どもたちはイメージを膨らませ、模倣したり動きを考えたりしながらヒーローになりきり、変身し、ストーリーを展開させて架空の世界を楽しむ。

子どもの全身を使った表現は2歳ころから模倣の形ではじまり、その表現の基本は「からだで表す」ことである。子どもの表現力を豊かに育むためには、遊びのなかで動きのコントロールや緊張と弛緩、音楽やリズムに誘発されて動いたり、踊ったりするなど、からだでの表現体験をたくさん持たせることである。

幼稚園教育要領における「表現」のねらいでは、「感じたことや考えたことを自分なりに表現することをおして、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」¹⁾と記されている。その活動内容は、歌ったり、奏でたり、描いたり、作ったり、話したり、踊ったり、身体を動かしたり、といった子どもの遊びの中にすべて含まれるものであるが、身体活動に焦点を当てるなら、身体表現やダンスは運動遊びの中で「表現」を育む題材としてふさわしいものであると考えられる。身体表現やダンスは子どもの大好きな活動の一つであり、創造力を育み、身体活動の幅を広げる意味でも子どもの運動遊びには欠かせないものである。

保育者が子どもの表現活動の援助を好ましい形で実践するには、まず「保育者自身の表現力が豊かでなければならない」と黒川²⁾は述べている。筆者は、過去に一般学生、ならびに保育専攻の学生に対して、不継続ではあるが何度か、ダンスに対する意識調査を行ってきた³⁾。その結果、ダンスを踊ることや人前で踊り、見られることに抵抗を感じる学生が過去よりは少なくなっているが、保育を専攻する学生のなかには、ダンスや表現運動を不得意、苦手とする学生が多いことが明らかであった。その理由の多くは、「どのように踊っていいかわからない」、「創作が苦手」などであり、創造力がない、イメージを描くことが苦手、リズム感が悪い、などの要因が挙げられていた⁴⁾。また、保育者を目指す短大生への調査でも、「身体表現は保育にとって重要だと思っけれど、好きだと積極的に言えず、得意でもないという意識を多くの学生がもっている」との報告もあった⁵⁾。保育者自身の表現力を高めるには、常に自分の身体表現を豊かにしようとする向上心を持たなければならない、音楽や絵画・造形、ダンスなどの活動において感受性や技能、表現力を高める必要があるという²⁾。

保育者自身の表現体験の充実の基本は心の開放であり、心のゆとりや感性が必要であり、まず人

目を気にする気持ちや恥ずかしさを取り除くことから始めなければならない。また、身体表現力を育むには保育者自身がのびやかに身体を動かすことや、表現を楽しむ心を持つこと、基礎技術を身につけることが大切で、具体的には模倣、リズム、ポーズ 構成 模倣 動きの記憶と再生 動きのスケッチ テーマの表現など¹⁾の表現活動が含まれる。そこで、保育者を目指す学生には、日常生活においていかにたくさんの身体表現活動をしているかに気付かせ、既に持っている表現技術を引き出せるテーマを与え、多くの表現運動体験を持つことによって、学生自身に自信を持たせることができる考える。

そこで、本研究では、筆者が過去に調査した「ダンスに関する意識の調査」を基本に、幼児体育の授業における「表現あそび」を受講していく上で、幼児に指導することを前提とした表現やダンスに対する自己評価、授業に対する取り組み方、授業を通しての表現やダンスの意識変化などについて調査した。これらの調査結果は、現在実施している授業内容の点検も視野にいれて、保育者の身体表現力を高める表現運動のあり方を検討し、幼児にふさわしい表現運動の指導内容を選定して、学生が保育者となった時に自信を持って指導に臨めるようなカリキュラム構成に役立てることを目的とする。

II. 方法

対象：東京成徳短期大学幼児教育科2年女子学生 297名

(2006年入学生 148名 2007年入学生 149名)

調査期間：2007年7月(2006年入学生) 2008年7月(2007年入学生)

調査方法：表現・ダンスに関するアンケート調査

調査内容：① ダンス全般について(好き・嫌い, 得意・不得意, 踊ることの好き・嫌い)

② 過去(中学校, 高等学校)の授業経験

③ 現在のダンスや表現能力の自己評価

④ 授業時の表現運動・ダンスについて(即興, 動きの構成, リズム, 発表など)

⑤ 受講による表現やダンスに対する意識変化

⑥ 保育者に必要な表現やダンスの資質とは(自由記述)

授業内容と課題：

① 準備運動としての「創作リズムダンス」

② 基本のダンスステップ(数種類)の練習, 文字や形を作る表現

③ 動くものを表現する「乗り物ごっこ」

④ リズムを表現する「8呼間のリズム」「からだのリズムセッション」

⑤ 日常動作をダンスにする「料理」

⑥ お話を表現する「親しみのある童話や昔話」

⑦ 遊具を使った表現(ボールを使って)「万華鏡」

⑧ 遊具を使った表現(フープを使って)「遊園地」

⑨ 遊具を使った表現(パラバルーン)「形とその変化」

⑩ 幼児と一緒に踊るフォークダンス「キンダーポルカ, ストップガロップ他」

⑪ 最終課題として, グループによる表現運動 「サマータイム」・・・企画, 練習を含め3週

⑫ 発表と観賞・・・次週に観賞, 評価のためビデオ撮りをする

⑬ 全課題についてのレポートと最終課題のビデオ観賞による自他グループの評価

III 結果と考察

2006年入学生及び2007年入学生の「幼児体育の基礎Ⅱ」の授業（2年時前期に開講）では、ほぼ同じカリキュラムで授業を実施し、授業の最終日（2007年7月及び2008年7月）には同一のアンケート調査を実施した。まず、この2グループのアンケート結果についてグループの独立性を検定するため、回答方法が2件法、3段階評定法、または5段階評定による質問項目について検定した。5段階評定法による「質問3」については、3段階評定法に換算して検定した。それらの結果は表1に示す。

表1より、2グループ間の回答に有意差が生じた質問項目は4⑦、4⑧、4⑩であり、ほとんどの項目には有意差がなく、2グループは同一の集団と見做すことができる。

したがって、2グループそれぞれの回答結果、及び2グループの統合結果（以下、全体とする）を纏め検討することにした。

表1 2007年調査と2008年調査における独立性の検定

質問	図番号	検定統計量 (χ^2 検定)	棄却限界	自由度	有意差 5%水準
1. ①	図1	3.587	5.991	2	なし
1. ②	図2	4.147	5.991	2	なし
1. ③	図3	2.971	5.991	2	なし
2. ①	図4	2.693	3.841	1	なし
3. ①	図5-1	2.148	5.991	2	なし
3. ②	図5-2	0.168	5.991	2	なし
3. ③	図5-3	0.593	5.991	2	なし
3. ④	図5-4	0.228	5.991	2	なし
3. ⑤	図5-5	1.679	5.991	2	なし
3. ⑥	図5-6	3.935	5.991	2	なし
3. ⑦	図5-7	0.326	5.991	2	なし
4. ①	図6-1	2.571	5.991	2	なし
4. ②	図6-2	4.650	5.991	2	なし
4. ③	図6-3	0.421	5.991	2	なし
4. ④	図6-4	4.423	5.991	2	なし
4. ⑤	図6-5	2.122	5.991	2	なし
4. ⑥	図6-6	5.620	5.991	2	なし
4. ⑦	図6-7	12.661	5.991	2	有
4. ⑧	図6-8	8.922	5.991	2	有
4. ⑨	図6-9	1.701	5.991	2	なし
4. ⑩	図6-10	2.210	5.991	2	なし
4. ⑪	図6-11	10.965	5.991	2	有
6. ①	図7-1	5.295	5.991	2	なし
6. ②	図7-2	1.180	3.841	1	なし
6. ③	図7-3	4.219	5.991	2	なし

1. ダンス全般について

ダンス全般について、質問1. ①（好き・嫌い）、質問1. ②（得意・不得意）、質問1. ③（踊ることの好き・嫌い）について質問した結果は表2に纏めた。

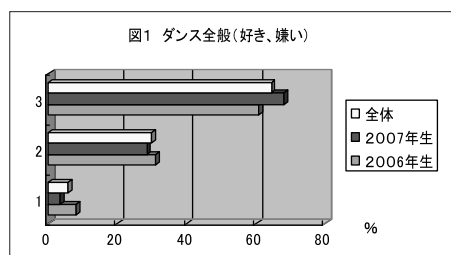
表2 ダンス全般について

質問1. ①	1	2	3	計(数)	1	2	3	計(%)
2006年生	12	46	90	148	8.1	31.1	60.8	100
2007年生	5	42	100	147	3.4	28.6	68.1	100.1
全体	17	88	190	295	5.7	29.8	64.4	99.9
質問1. ②	1	2	3	計(数)	1	2	3	計(%)
2006年生	50	83	14	147	34	56.5	9.5	100
2007年生	43	73	25	141	30.5	51.8	17.7	100
全体	93	156	39	288	32.3	54.2	13.5	100
質問1. ③	1	2	3	計(数)	1	2	3	計(%)
2006年生	5	51	91	147	3.4	34.7	61.9	100
2007年生	7	38	103	148	4.7	25.7	69.6	100
全体	12	89	194	295	4.1	30.2	65.8	100.1

※質問1. ①～③の回答、1=嫌い、2=どちらでもない、3=好き

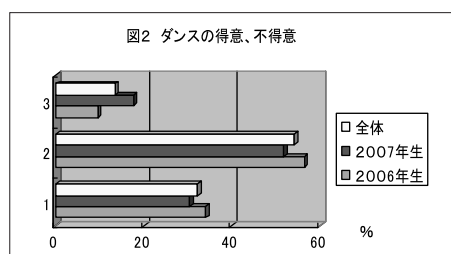
① ダンスの好き・嫌いについて

表2、図1より、ダンス全般についての「好き・嫌い」では、「好き」の回答が最も多く全体で64.4%であった。「嫌い」の回答は少なく、僅か5.7%であった。全般的にダンスは「好き」の傾向が強いことがわかる。



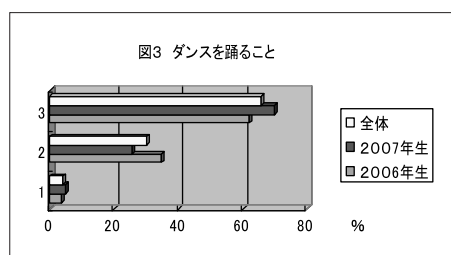
② ダンスの得意・不得意について

表2、図2より、「どちらでもない」の回答が最も多く全体で54.2%であった。次いで、「不得意」が32.3%であり、全般に不得意の者が多い傾向にある。ダンスが好きではあるが、得意とはいえない人が多くいることがわかる。



③ ダンスを踊ることの好き・嫌いについて

表2、図3より、「好き」の回答が最も多く全体で、65.8%であった。次いで「どちらでもない」が多く30.2%であり、全般に踊ることは好きな者が多い傾向にある。①②の回答傾向から考えるとダンスは好きであり、踊ることも好きではあるが得意とは言い難い人が多いと考えられる。



2. 学校でダンス経験について

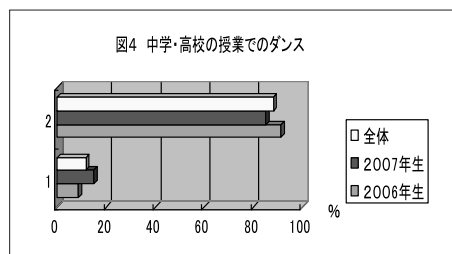
表3、図4は中学校、高等学校の授業におけるダンスの実施についての回答を纏めたものである。「ある」と回答した者が全体で88.2%であり、ほとんどの学生が、中学、高校の授業においてダンスの授業を受けてきた。しかし中学、高校を通してダンスの授業を受けていなかった学生は11.8%いた。授業時の観察において、中学、高校でダンスの授業を受けていなかった学生の中には、即興や創作について理解が不十分な学生もいて、ペアでの即興やグループ創作の際に戸惑いが見られる場面が見られた。

3. ダンスや表現力についての自己評価

表3 学校の授業でのダンス経験

質問2. ①	1	2	計 (%)	1	2	計 (%)
2006年生	13	136	149	8.7	91.3	100
2007年生	22	126	148	14.9	85.1	100
全体	35	262	297	11.8	88.2	100

※質問2. ①の回答、1=ない 2=ある



現在の学生自身のダンスや表現能力について質問した結果は表4に示す。回答は5段階評価で求めたが集計に当たっては、「うまくできる」と「どちらかというとうまくできる」を合わせて評価3とし、「あまりうまくできない」と「うまくできない」を合わせて評価1とし、「ふつう」を評価2と変換した。各質問項目の結果については以下①から⑦に示す。

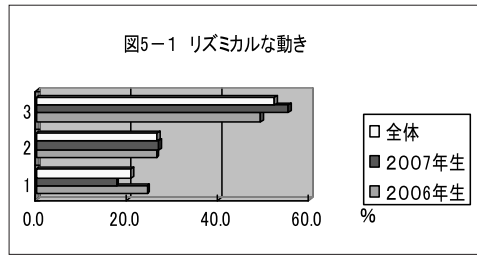
表4 ダンスや表現能力の自己評価

質問3. ①	1	2	3	計 (数)	1	2	3	計 (%)
2006年生	36	39	73	148	24.3	26.4	49.3	100.0
2007年生	26	40	82	148	17.6	27.0	55.4	100.0
全体	62	79	155	296	20.9	26.6	52.4	99.9
質問3. ②	1	2	3	計 (数)	1	2	3	計 (%)
2006年生	20	39	89	148	13.5	26.4	60.1	100.0
2007年生	18	38	92	148	12.2	25.7	62.2	100.0
全体	38	77	181	296	12.8	26.0	61.1	100.0
質問3. ③	1	2	3	計 (数)	1	2	3	計 (%)
2006年生	37	57	54	148	25.0	38.5	36.5	100.0
2007年生	41	59	48	148	27.7	39.9	32.4	100.0
全体	78	116	102	296	26.4	39.2	34.5	100.0
質問3. ④	1	2	3	計 (数)	1	2	3	計 (%)
2006年生	43	65	40	148	29.1	43.9	27.0	100.0
2007年生	37	61	40	138	26.8	44.2	29.0	100.0
全体	80	126	80	286	28.0	44.1	28.0	100.0
質問3. ⑤	1	2	3	計 (数)	1	2	3	計 (%)
2006年生	39	62	47	148	26.4	41.9	31.8	100.0
2007年生	38	53	57	148	25.7	35.8	38.5	100.0
全体	77	115	104	296	26.0	38.9	35.1	100.0
質問3. ⑥	1	2	3	計 (数)	1	2	3	計 (%)
2006年生	14	43	91	148	9.5	29.1	61.5	100.0
2007年生	6	40	102	148	4.1	27.0	68.9	100.0
全体	20	83	193	296	6.8	28.0	65.2	100.0
質問3. ⑦	1	2	3	計 (数)	1	2	3	計 (%)
2006年生	53	59	36	148	35.8	39.9	24.3	100.0
2007年生	56	60	32	148	37.8	40.5	21.6	100.0
全体	109	119	68	296	36.8	40.2	23.0	100.0

※質問3. ①～⑦の回答、自己評価（3段階、降順）

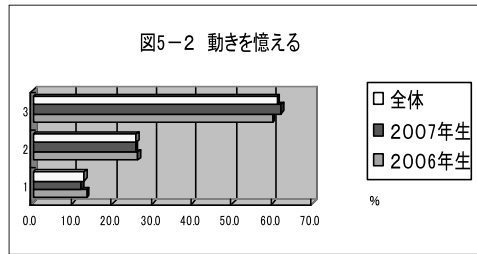
① リズミカルな動くこと

リズムカルに動くことは、全体で半数以上の学生(52.4%)が3と評価しているが、評価2、と1も合わせて50%近くいることから、自己評価の高い学生は半数程度であることがわかる。最近の若者のダンスは、ヒップホップのようなノリのよいリズムダンス⁶⁾が主流となっている傾向によるものであろう。



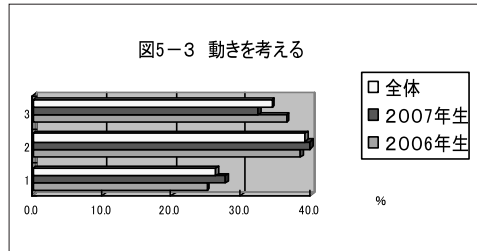
② 動きを憶えること

動きを憶えることは、全体で半数以上の学生(61.1%)が3と評価しており、自己評価の高い学生が多いことがわかる。動きの順番を憶えたり、他人の真似をして動き方を憶えたりすることは比較的容易にできるが、必ずしも表現と結びつくものではない。



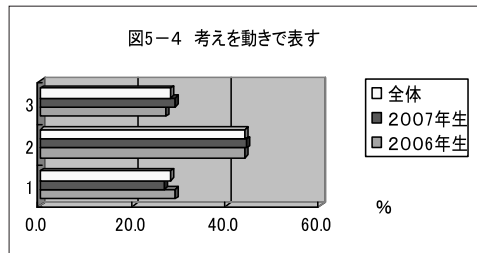
③ 動きを考えること

動きを考えることは、評価が割れ、最も多いものは評価2(39.2%)であるが、評価3(34.5%)、評価1(26.4%)も多い。過去の調査と同様に、動きを自分で考えるのが苦手な学生が依然多いことがわかる。



④ 考えを動きで表すこと

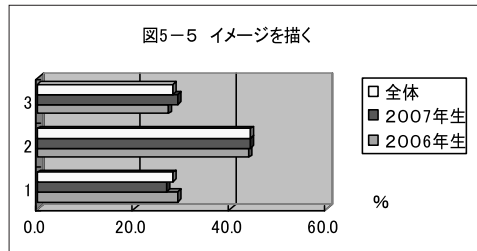
考えを動きで表すことも、③と同様に評価が割れ、最も多いものは評価2(44.1%)であるが、評価3(28.0%)、評価1(28.0%)も多い。③の結果と同様に、動きを考えることや、考えた動きを身体運動で再現するという、描いたイメージどおりに動くことが難しいようである。



⑤ イメージやアイデアを描くこと

イメージやアイデアを描くことは、③④と同様の傾向にあり評価が割れ、最も多いものは評価2(38.9%)であるが、評価3(35.1%)、評価1(26.0%)も多い。

運動で表現する前にまず動きをイメージすることが難しいようであり、表現運動の体験の少なさがその要因の一つであると考えられる。

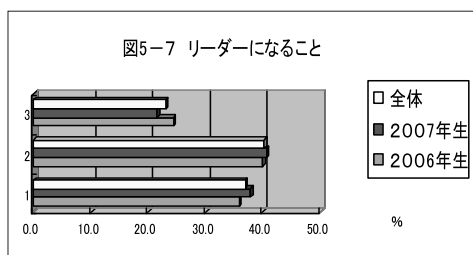
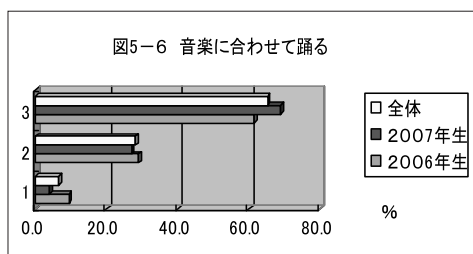


⑥ 音楽に合わせて動くこと

音楽に合わせて動くことは、①のリズミカルに動くことと同様の傾向があり、全体で半数以上の学生（65.2%）が3と評価しており、評価1は（6.8%）少なく、音楽に合わせて踊ることへの自己評価が比較的高いことがわかる。最近の若者は常に音楽が身近な存在であるので、好きな音楽を聞きながら動くことは難しいものではないようである。

⑦ グループ創作のリーダーになること

グループ創作の際、「リーダーになること」には、評価の高い学生が少なく、評価2（40.2%）や評価1（36.8%）が多い。グループ学習時においてリーダーシップ力の低い学生が多い傾向にあることがわかる。グループ創作に限らず、運動遊びの授業の際もグループ学習では、率先してリーダーになろうとする学生が少ない傾向が見られる。



4. 授業での表現運動・ダンスについて

授業での表現運動やダンスの自己評価についての質問した結果は表5に示す。回答は3段階評価で求めた。

各質問項目の結果については以下①から⑩に示す。

表5 授業での表現運動やダンスの自己評価

質問4. ①	1	2	3	計(数)	1	2	3	計(%)
2006年生	39	96	14	149	26.2	64	9.4	100
2007年生	36	89	23	148	24.3	60	16	99.9
全体	75	185	37	297	25.3	62	13	100.1
質問4. ②	1	2	3	計(数)	1	2	3	計(%)
2006年生	31	80	38	149	20.8	54	26	100
2007年生	20	76	52	148	13.5	51	35	100
全体	51	156	90	297	17.2	53	30	100
質問4. ③	1	2	3	計(数)	1	2	3	計(%)
2006年生	32	93	21	146	21.9	64	14	100
2007年生	27	94	22	143	18.9	66	15	100
全体	59	187	43	289	20.4	65	15	100
質問4. ④	1	2	3	計(数)	1	2	3	計(%)
2006年生	19	87	42	148	12.8	59	28	100
2007年生	11	80	56	147	7.5	54	38	100
全体	30	167	98	295	10.2	57	33	99.9
質問4. ⑤	1	2	3	計(数)	1	2	3	計(%)
2006年生	13	92	43	148	8.8	62	29	100.1
2007年生	14	80	54	148	9.5	54	37	100.1
全体	27	172	97	296	9.1	58	33	100
質問4. ⑥	1	2	3	計	1	2	3	計
2006年生	6	53	90	149	4	36	60	100
2007年生	1	43	104	148	0.7	29	70	100.1
全体	7	96	194	297	2.4	32	65	100
質問4. ⑦	1	2	3	計(数)	1	2	3	計(%)
2006年生	14	66	68	148	9.5	45	46	100
2007年生	3	52	93	148	2	35	63	99.9
全体	17	118	161	296	5.7	40	54	100
質問4. ⑧	1	2	3	計(数)	1	2	3	計(%)
2006年生	17	74	58	149	11.4	50	39	100
2007年生	7	61	80	148	4.7	41	54	100
全体	24	135	138	297	8.1	46	47	100.1
質問4. ⑨	1	2	3	計(数)	1	2	3	計(%)
2006年生	11	121	15	147	7.5	82	10	100
2007年生	6	126	13	145	4.1	87	9	100
全体	17	247	28	292	5.8	85	9.6	100
質問4. ⑩	1	2	3	計(数)	1	2	3	計(%)
2006年生	9	32	107	148	6.1	22	72	100
2007年生	5	26	117	148	3.4	18	79	100.1
全体	14	58	224	296	4.7	20	76	100
質問4. ⑪	1	2	3	計(数)	1	2	3	計(%)
2006年生	14	59	75	148	9.5	40	51	100.1
2007年生	5	42	101	148	3.4	28	68	100
全体	19	101	176	296	6.4	34	60	100

*質問4. ①～⑪の回答、自己評価(3段階降順)

① 即興的に動くことの得意・不得意

授業時に即興で動くことは得意であったかどうかについて質問した。図6-1より、評価2（どちらでもない）の学生が多く、次いで評価1（不得意）であった。評価3の「得意」とする学生は少なく13%であった。即興には表現運動体験の多さや、大胆な動きが必要であることから、得意とする人が少ないと考えることができる。

② 即興的に動くことの好き・嫌い

授業時に即興で動くことは好きであったかどうかについて質問した。図6-2より、評価2（どちらでもない、53%）の学生が多く、次いで評価3（得意30%）であった。先の質問の得意・不得意に比べて評価1より評価3の方が多く、即興を肯定的に受け止めていることが伺える。

③ 創作すること（動きや構成を考えて）の得意・不得意

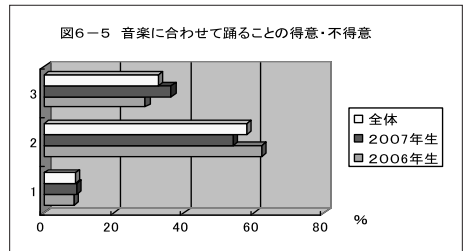
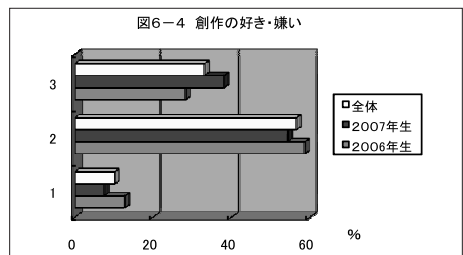
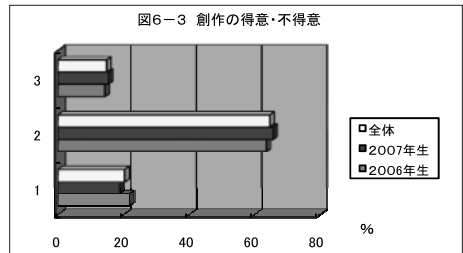
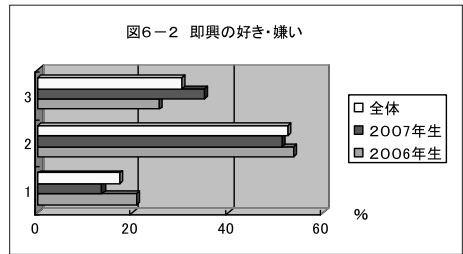
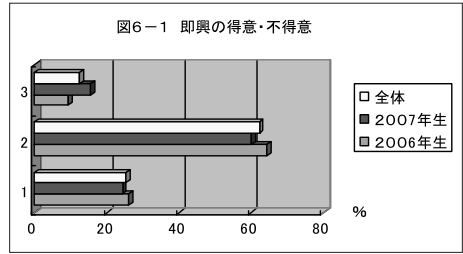
授業時に動きや構成を考えてして動く創作は得意であったかどうかについて質問した。図6-3より、評価2（どちらでもない、65%）の学生が多く、評価1（不得意）は20.4%と評価3（得意、）は15%と少なかった。この傾向は①の即興的に動くことと類似の傾向が見られる。

④ 創作すること（動きや構成を考えて）の好き・嫌い

授業時に動きや構成を考えてして動く創作は好きであったかどうかについて質問した。図6-4より、評価2（どちらでもない）の学生が多く（57%）、次いで評価3（得意、33%）であった。評価1（不得意）は10.2%と少なく、創作についても即興と同様に、肯定的に捉えている傾向があった。

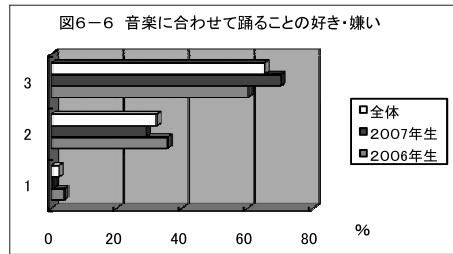
⑤ 音楽に合わせて踊ることの得意・不得意

授業時に音楽に合わせて踊ることは得意であるかどうかについて質問をした。図6-5より、評価2（どちらでもない）の学生が最も多く58%であった。ついで、評価3（得意、33%）であり、評価1（不得意）9.1%と少なかった。前述3. ①のリズミカルに動くことの自己評価が高かったのとは異なり、リズミカルな動きと音楽に合わせた動きは別要因として捉えられる。



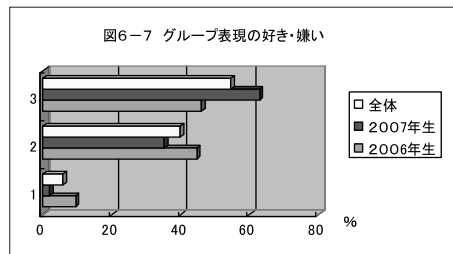
⑥ 音楽に合わせて踊ることの好き・嫌い

授業時に音楽に合わせて踊ることは好きであるかについて質問をした。図6-6より、評価3（好き）の学生が最も多く65%であった。ついで、評価2（どちらでもない、32%）であり、評価1（嫌い）は2.4%と少なかった。音楽に合わせて踊ることは楽しく好きだ、という学生が多いことから得意ではないけれど好きという学生が多いことが伺える。



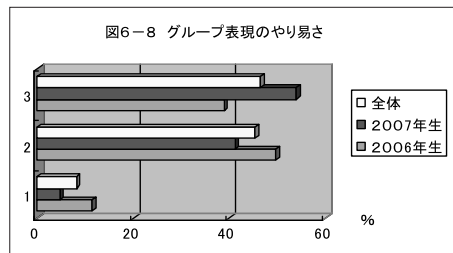
⑦ グループでの表現の好き・嫌い

授業時にグループで表現することが好きであるかについて質問をした。図6-7より、評価3（好き）の学生が最も多く54%であった。ついで、評価2（どちらでもない、40%）であり、評価1（嫌い）は5.7%と少なく、グループでの表現は楽しく好きだ、という学生が多いことが伺える。



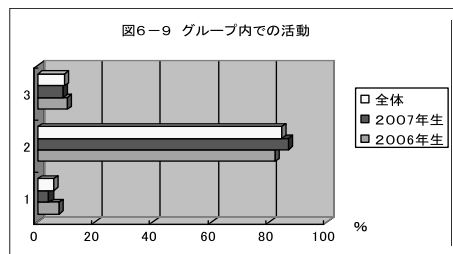
⑧ グループでの表現のやり易さ

授業時にグループでの表現はやり易いかについて質問をした。図6-8より、評価3（やり易い、47%）と評価2（どちらでもない、46%）に分かれており、評価1（やり難い）は8.1%と少なく、グループでの表現はどちらかといえばやり易い傾向にあることがわかる。



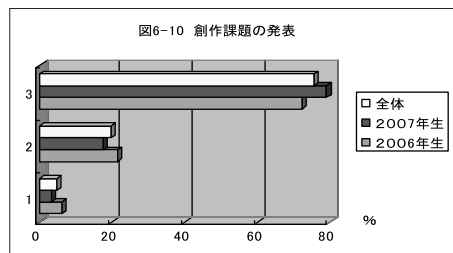
⑨ グループ内での自分の活動

授業時にグループでの自分の活動について質問をした。図6-9より、評価2（時々意見を出した、85%）が断然多く、評価3（たいていリーダー的存在であった、9.6%）と評価1（ほとんど意見を出さなかった、5.8%）は少なかった。グループでリーダーシップ性を発揮する学生が少ないことがわかる。



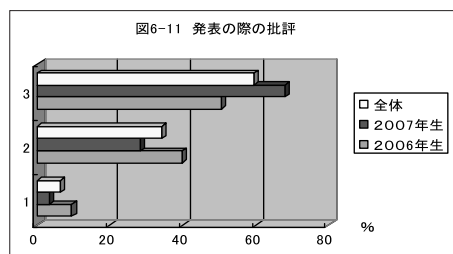
⑩ 創作した課題（表現）の発表

授業時にみんなの前で創作した表現課題を発表することについて質問をした。図6-10より、評価3（楽しくできた、76%）が断然多く、評価2（どちらでもない、20%）と評価1（苦痛であった、4.7%）は少なかった。グループでの発表を楽しんでいた様子が伺える。



⑪ 発表で評価（コメント）を受けたこと

授業時の発表で批評（コメント）を受けたことについて質問をした。図6-11より、評価3（よかった、60%）が多く、次いで評価2（どちらでもない、34%）が多く、評価1（よくなかった、6.4%）は少なかった。自分のグループの発表についてなんらかの批評を受けることに肯定的な学生が多いことが



伺える。

5. 受講による意識変化

幼児体育の基礎Ⅱの授業を受講したことで、表現やダンスに対する意識の変化があったかどうかについて3項目の質問を行った。それらの結果は表6に示す。回答は3段階評価で求めた。

各質問項目の結果については以下①から③に示す

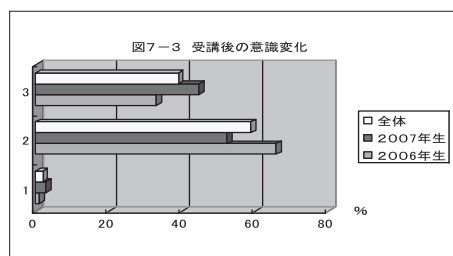
表6 授業後のダンスや表現運動に対する意識変化

質問5. ①	1	2	3	計(数)	1	2	3	計(%)
2006年生	2	55	82	139	1.4	40	59	100
2007年生	0	41	97	138	0	30	70	100
全体	2	96	179	277	0.7	35	65	100
質問5. ②	1	2	3	計(数)	1	2	3	計(%)
2006年生	0	72	27	99	0	73	27	99.9
2007年生	0	71	37	108	0	66	34	100
全体	0	143	64	207	0	69	31	100
質問5. ③	1	2	3	計(数)	1	2	3	計(%)
2006年生	1	64	32	97	1	66	33	99.9
2007年生	3	55	47	105	2.9	52	45	100.1
全体	4	119	79	202	2	59	39	100

※質問5. ①～③の回答, 意識変化(3段階, 降順)

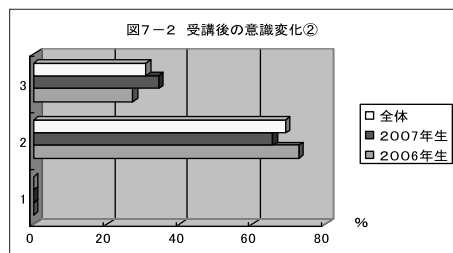
① ダンスが表現の好き・嫌い

受講したことによる、表現やダンスに対する好き・嫌いの意識の変化について質問した。図7-1より、評価3(表現やダンスが好きになった, 65%)が多く、次いで評価2(以前と変わらない, 35%)が多く、評価1(嫌いになった, 0.7%)は少なかった。受講後にプラス面での意識の変化があった学生の多いことが伺える。



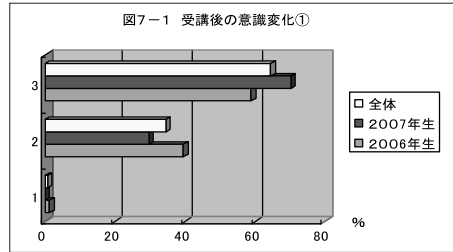
② ダンスが表現の得意・不得意

受講したことによる、表現やダンスが得意になったか否かの意識の変化について質問した。図7-2より、評価2(以前と変わらない, 69%)が多く、次いで評価3(得意になった, 31%)が多く、評価1(不得意になった,)はいなかった。受講後に得意になったというプラス面での意識の変化があった学生が30%以上あることは自信に繋がるのが伺える。



③ 表現やダンスの自信

受講したことによる、表現やダンスに自信が持てるようになったか否かの意識の変化について質問した。図7-3より、評価2（以前と変わらない、59%）が多く、次いで評価3（得意になった、39%）が多く、評価1（不得意になった、2%）は極少数であった。受講後に自信がついたというプラス面での意識の変化があった学生が約40%いることは得意になったことが自信に繋がったことが伺える。



6. 保育者に必要な表現やダンスの資質（自由記述による回答）

「保育者に必要な表現やダンスの資質とはどのようなものだと考えますか、自由に書いてください」との質問に次のような回答があり、要因別に纏め表6に示した。最も多い回答は、保育者自身が楽しむことや楽しんで踊ることであり、なによりも楽しいことが子どもに伝わると考えていた。次に多い回答は、動きの大きさや、恥ずかしがらずに堂々と踊るなど、表現力をつけることを揚げていた。踊ることにはリズム感をつけることや、想像性や創造力を身に付けることの大切さも認識している。

表6 保育者に必要な表現やダンスの資質とは（自由記述から）

要因	内容	対象	数(人)
楽しむ	何よりも楽しく踊る、楽しむこと	2006年生	42
	自分自身が楽しむ、楽しく踊る、楽しさを知る	2007年生	38
		全体	80
表現力 動き	イメージを身体で表現、豊かな表現力	2006年生	25
	表現力、なりきる、大きく踊る、はっきり、わかりやすい動き、即興、恥ずかしがらない、自信をもつ	2007年生	31
		全体	56
リズム感	リズム感	2006年生	6
	リズム感	2007年生	20
		全体	26
想像力 創造力	自由な発想、豊かな創造力	2006年生	8
	想像力、創造力、発想力、独創性、個性、自由な発想	2007年生	17
		全体	25
子どものことを 考える	子どもにわかりやすく、子どもと一緒に踊る、子どもの発達に即したダンスをする	2006年生	11
	楽しめるダンスを考える、堂々と伝える、楽しんで伝える、楽しい気持ちを伝える	2007年生	8
		全体	19
その他	笑顔、経験、素直な心、新鮮な気持ち	2006年生	6
	笑顔、協力、やる気、熱意、リーダーシップ、体力、感性、センス、柔軟な心とからだ	2007年生	19
		全体	25

IV まとめ

2007年7月、2008年7月の前期授業終了に際して、幼児体育の基礎Ⅱを受講した学生全員を対象に表現・ダンスに対する意識、授業内容を含めた各学生の取り組み、受講による意識変化などについて調査を行った。

入学年度が異なる2グループであるため、まずその独立性について検定した結果、調査回答のほとんどで有意差はなく、同一集団と見做すことができたので、対象者全員を一グループとして検討していくこととした。

ダンス全般については、踊ることも含めて「好き」ではあるが「不得意」という学生が多いことがわかった。中学や高校の授業ではほとんどの学生が経験してきているが、1割強の学生が未経験であるため保育者を目指す学生としては基礎的なダンス学習も必要であると思われる。

現在の学生自身のダンスや表現能力について自己評価を求めた結果、自己評価の高い項目は、「リズムカルに動くこと」、「動きを憶えること」、「音楽に合わせて動くこと」であり、低い項目は「動きを考える」、「考えを動きで表す」、「イメージを描く」であった。これは、決まったステップや人に教えてもらう踊りのように、あまり考えず依存的に動くことや表現をすることは得意であるが、自ら主体的にじっくり考えたりイメージを描いたりする、想像力や創造性が欠如している傾向を示している。

授業での表現やダンスについての自己評価の高かった項目は、「音楽に合わせて踊る」、「グループでの表現」、「創作の発表」、「発表の評価を受ける」であった。自己評価の低い項目は「即興が得意」「即興が好き」「創作が得意」「創作が好き」の項目であり、以前から変わらず即興や創作など創造することやイメージを描くことが苦手である学生が多いことが伺える。しかしグループ創作し発表することは楽しくでき、みんなに見てもらい評価も受けることに意義がある、と表現活動を積極的に捉えている姿勢が伺える。

受講後の意識変化の大きかった項目は「表現やダンスが好きになった」であるが、「表現やダンスに自信が持てるようになった」も比較的多く、受講後の感想からも「楽しくできた」、や「達成感や充実感があった」と記述した学生が多かったことから、即興や創作も経験の豊富さが楽しさにつながり、自信が持てるようになってくると推察できる。

また、保育に必要な表現やダンスの資質はどのようなものであるか自由記述を求めた結果、まずは保育者自身が楽しむことが揚げられ、次に動きのダイナミック性や恥ずかしがらず堂々と踊るなどの表現力であると認識している。

以上のことから、今後のダンスや表現運動の授業において、保育者養成の立場から考えると、子どもの感性を育み創造性豊かな表現活動の援助には、保育者自身の想像性を身につけ、創造力を高めるような授業を展開する必要があるが、何よりも学生自身が表現の楽しさを体感できる工夫も必要と考える。

引用・参考文献

- 1) 花原幹夫編著：保育内容「表現」 北大路書房 2006 p.13 pp. 114-119
- 2) 黒川健一編：保育内容「表現」 ミネルヴァ書房 2005 p. 193
- 3) 宮下恭子：「保育専攻学生の表現・ダンスに対する意識とその学習における自己評価」東京成徳短大 紀要 第38号 2005
- 4) 宮下恭子：「幼稚園・保育所における運動遊びとその指導に関する考察 一実習生の調査から一」東京成徳短期大学 紀要 第40号 2007

5) 西 洋子他：子ども・身体・表現 市村出版 2003

6) 村田芳子編著：「楽しいリズムダンス・現代的なリズムのダンス」小学館 2002 P.6